

2016年1月5日  
昭和電線ホールディングス株式会社

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみますと、予想していたとはいえ前年に引き続き当社グループにとっては厳しい事業環境下で推移しました。

電力システム事業においては、昨年昭和電線ケーブルシステムとエクシムを統合しましたが、一番の理由は国内電力会社向けと再生エネルギーをはじめとする国内民間電力市場向け、更には輸出を含むグループの電力システム事業を一本化し明確な位置づけを図ったということです。

電力システムの国内市場は、東日本大震災の後5年間に亘って電力各社の設備投資が大幅に抑えられていましたが、本年以降設備更新需要や新規設備投資も徐々に具体化してくるものと予想されています。このような環境の下、当社グループの電力機器部品は市場でお客様から高い評価をいただいています。

今年度は現中期経営計画の2年目に当たりますが、中期経営計画を策定した時と事業環境が大きく変わったことから見通しは大幅に乖離した状況で推移しています。来年度以降については事業環境の変化を受けて現行の中期経営計画を見直し、2016年度を新たなスタートとした3年間の新中期経営計画の編成を開始しました。

基本的な重点施策を踏襲することにより、当社グループのこの数年間の具体的活動成果を安定した収益に繋げていくことが何よりも重要と考えています。

今年こそ、従来の考え方や行動に捉われることなく、事業環境の変化に合わせて意識を変えていきましょう。

昭和電線ホールディングス株式会社

取締役社長 相原 雅憲

この件に関するお問合せ先

経営企画部 IR・広報グループ 舘山 雄一 TEL 03-5404-6951